



玉川大学 教育フォーラム2020 (オンライン)

IBにおける学習と指導のアプローチ

開催日: 令和2年11月29日 (日)
時間: 9:30 - 4:00pm

学習指導要領改訂の背景には、子どもたちに、情報化やグローバル化などの急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質能力を確実に備えることのできる学校教育の重視があります。学習指導要領が目指すのは、学習の内容だけではなく、学習の方法も重視し、子どもたちの学びの過程を質的に高めていくことです。そこで、今年度は「IBにおける学習と指導のアプローチ」を中心に考えていきます。

IBをすでによく理解されているIB実践者から、これからIBを勉強しようとする方まで、IB教育の真髄を理解する素晴らしい機会となるようプログラムを構成しました。今年度の午前の基調講演はIB本部の Pam Bender 氏に新しく生まれ変わった「プログラムの基準と実践要項」についてお話しをしていただくことになりました。午後の分科会では、日本のIB 認定校の教育実践者やIBのワークショップリーダー等日本におけるIBのエキスパートが、さまざまな体験的な学びの時間を用意していますので、ぜひご参加ください。

事前申込制 (参加費無料)
午後定員 25名
対象者: 教育関係・一般
申込締切: 11月20日 (金)

主催: 玉川大学 学術研究所 K-16一貫教育研究センター
後援: 国際バカロレア機構アジア太平洋地域事務局

お問い合わせ: 玉川大学 学術研究所
Email: ibec@tamagawa.ac.jp

[登録するにはここをクリック](#)



9:30 - 11:10

開会の辞

基調講演:

1. 講演者: ベンダー パメラ

--学習と指導のアプローチ: 未来の創造者を育てる--

発表言語: 英語(日本語字幕あり)

ファシリテーター: ネルソン 文子

2. 講演者: カメダ クインシー, 小松 万姫

IB JTA研究報告: 日本のIB校における効果的なATLの実践のあり方についての研究調査

11:20 - 12:00

玉川学園 IB 生徒発表・ATLロールプレイ

12:10 - 12:50

玉川大学大学院教育学研究科 IBEC 院生/卒業生 研究発表

13:00 - 15:00

前半: 理論編

後半: 実践編

各分科会の参加者定員数: 25 人

※分科会:

1. 探究を基盤とした指導. 指導者: 下村 かおる (日本語)
2. 概念に重点を置く指導. 指導者: 遠藤 みゆき (日本語)
3. 文脈化された指導. 指導者: 山本 勝治 (日本語)
4. 協働に基づく指導. 指導者: フロスト クリストファー (英語)
5. 生徒の多様性に応じて差別化した指導. 指導者: ビーヴァーフォード カーティス(英語)
6. 評価を取り入れた指導. 指導者: 有馬 実世 (日本語)

15:10 - 16:00

IBEC 学生/院生交流の場・情報交換会

(IBEC 7 大学の学生および院生の参加を歓迎します。)

基調講演者1: 学習と指導のアプローチ:未来の創造者を育てる



プロフィール:



ベンダー パメラ

パメラ・ベンダーは、教育と青少年の育成に関わる非営利団体、高等教育機関、出版社、および非営利の開発とアドボカシーの組織で20年以上の経験を有する。2012年9月に国際バカロレア機構のグローバルスクールサービス局の認定前サービス部門の責任者に就任。現在は、認定方針と設計の責任者としてIBの認定プロセスと質保証の業務を総括している。また、地域開発、認定、そしてIB教育者ネットワーク担当者と連携し、学校支援を基本としながらグローバルな認定のプロセスの適正な、厳正な、そして忠実な実施を目指している。直近ではプログラム基準と実践要綱の改訂に伴う認定および評価のあり方の検討やその支援資料の作成

を評価政策・デザイン部門の責任者とともに、取り組んでいる。パメラはフランクリン&マーシャル大学(ペンシルベニア州)より英文学とビジネス経営の学士号を、アメリカン大学(ワシントンDC)より英文学の修士号を取得。また、スタンフォード大学ビジネススクールで非営利団体におけるリーダーシップに関する上級資格を取得し、現在も、ハーバード大学教育学大学院およびケネディスクールにて研究を進めている。



ネルソン 文子 (基調講演1ファシリテーター)

インターナショナルスクールと一条校でDPコーディネーターを務めた後、IB-文部科学省デュアルランゲージ・ディプロマプロジェクト・コーディネーターとしての職務につく。IBコンサルタント、学校訪問のリーダー/メンバー、ワークショップリーダー(管理職、コーディネーション、日本語B)、IB文書の監修、習得言語のカリキュラムレビューなどに関わり、IBの様々な分野で貢献。IB教育に情熱を持ち、日本のDLDPプロジェクトの更なる発展をめざす。

基調講演者2: IBジェフトンプソン研究賞 研究報告

プロフィール:



カメダ クインシー

2003年トロント大学 理学部 天体物理学卒業、2014年トロント大学・オンタリオ教育研究所 修士課程教員養成カリキュラム開発研究科修了 2008年より玉川学園にて、MYP理科・数学、DP物理・数学・TOKを担当、DPコーディネーター。2010年よりMYP/DP Bilingual Workshop Leader (オンラインワークショップも含む)、DP物理 Examiner, 2013年よりMYP/DP School Visiting Team Leader、DP Consultant、IB Field Representative、IBEN Trainerを兼務。2015年~2017年は国際バカロレア機構日本教育専門官を兼務。2014年9月より玉川大学学術研究所K-16一貫教育研究センター講師として玉川大学大学院教育学研究科のIB教員養成プログラムのIB関連科目を担当。



小松 万姫

東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭。東京学芸大学附属高等学校大泉校舎にて教諭として帰国生に英語を教えたのち、2010年より国立初のMYP校認定校となった現任校で言語習得(外国語)・個人と社会(社会)、パーソナルプロジェクトを担当。更に現任校のDP立ち上げに関わる。2016年よりDP英語B・TOKを担当。また課題論文コーディネーターやDPコーディネーターを務める。勤務校での業務の他に2016年よりバイリンガルワークショップリーダー、認定訪問員を兼務。更に2019年より東京学芸大学教職大学院IB教員養成特別プログラムの大学院生の指導、国際基督教大学非常勤講師などを通してIB教員養成に関わる。2020年より文部科学省IB教育導入サポーター。

分科会 1: ATT (探究を基盤とした指導)

プロフィール:



下村 かおる

イギリスでキーステージ3とGCSE数学の担当として教員生活をスタート。その後、6年間、福岡インターナショナルスクールでDP数学教員およびCASコーディネータとして勤務。現在は玉川学園でMYPおよびDPの数学教員、IB数学主任として教壇に立つ。IBENメンバーとして、日本およびアジア太平洋地域のワークショップリーダーとして、またDP数学試験官として活躍中。

分科会 2: ATT (概念に重点を置く指導)

プロフィール:



遠藤 みゆき

国内外で中学、高校、大学教員を経て、現在関西学院大学にて国際バカロレア (IB) 教員養成プログラムディレクター、准教授。海外のインターナショナルスクールでIB教育と出会い、以後20年にわたってIB教育に専心し、DP管理職者向けや日本語A/BなどのIBワークショップリーダーとしてIB普及にも力を注ぐ。H・リン・エリクソンとロイス・A・ラニングの「概念型カリキュラムと指導」公認プレゼンター兼トレーナー。エリクソンらの*Concept-Based Curriculum and Instruction for the Thinking Classroom 2nd edition* (Corwin)を共訳し上梓。(邦題『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践』北大路書房2020年)

分科会 3: ATT (文脈化された指導)

プロフィール:



山本 勝治

東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭。東京都内の私立高校教諭として6年間勤めた後、東京学芸大学附属高等学校大泉校舎に異動。2007年に附属大泉中学校との統合再編で中高一貫校として現勤務校が新設。その開校準備においてIB教育を知る。これまでMYP個人と社会やPPを担当。2016年度のDP開設以降はDP歴史とTOKを担当。DP歴史のワークショップリーダー、東京学芸大学教職大学院IB教員養成特別プログラムの大学院生の指導、都留文科大非常勤講師 (IBDP History) を通してIB教員養成にも関わる。IB関係以外には、高校世界史の文部科学省検定教科書の編集にも関わる。著書 (いずれも共著) は、『社会の危機から地域再生へ〜アクティブ・ラーニングを深める社会科教育〜』(東京学芸大学出版会、2016年)、『国際バカロレア教育と教員養成』(学文社、2020年)、等。

分科会 4: ATT (協働に基づく指導)

プロフィール:



フロスト クリストファー

現在、東京インターナショナルスクールの副校長。PYPワークショップリーダー、学校訪問団メンバー、IBコンサルタント、オンラインワークショップファシリテーターとして、アジア太平洋地域の各地で活躍中。指導と学習のアプローチの資料を作成するなどIBのPYPの発展に寄与してきた。IB以外でもEARCOS学校のワークショップの取り組み、CISやNEASCの認証チームメンバーとしての活動、Fieldwork Education社での国際初等教育カリキュラム作成に参加、個人教育コンサルタントとしても活動中である。

分科会 5: ATT (生徒の多様性に応じて差別化した指導)

プロフィール:



ビーヴァーフォード カーティス

カナダ生まれ。1997年以来、教員として世界各地で教壇に立つ。IBとの出会いは2001年。台湾、カタール、インドネシア、東チモールのインターナショナルスクールでの教員経験をもつ。MYPおよびPYPのデザイン担当教員として教員生活をスタート。以来、IBの提供する3つのプログラムにおいて教鞭をとり、コーディネータもつとめる。IB機構ではMYP地域マネージャーとして6年間シンガポールで勤務、その後、ディリインターナショナルスクールで2年間学校長を経験。筑波大学では3年間、准教授としてIB教員養成プログラムの立ち上げに携わる。現在は玉川大学大学院教育学研究科教授としてIB教員養成プログラムのIB関連科目担当。都留文科大学でもIB関連科目を兼務。

分科会 6: ATT (評価を取り入れた指導)

プロフィール:



有馬 実世

お茶の水女子大学卒業後、私立中高一貫校で主に社会科の教員として勤務。2018年4月玉川大学大学院教育学研究科教育学専攻IB研究コース入学、2020年3月修了、国際バカロレアCTL、ACTLR取得。現在、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻博士後期課程1年、お茶の水女子大学附属中学校非常勤講師。